歩行に不安のある方の
院内移動をサポート

自動運転モビリティ「WHILL」の外来運用を開始しました

リハビリテーション部　副部長　　酒井（さかい）　康生（やすお）

当院では、これまで整形外科病棟の入院患者さんを対象に、**自動運転モビリティ「WHILL（ウィル）」**を活用し、病棟とリハビリテーション室間の移動支援を行ってきました。

安全性と有用性の検証を重ねてきた実績を踏まえ、このたび患者さんの利便性向上と院内移動の負担軽減を目的として、**利用対象を外来患者さんや入退院患者さんへ拡大し、外来での運用を開始しました。**

大学病院は建物が広く、診療科や検査室への移動が大きな負担となることがあります。WHILL は、そのような移動に不安を抱える患者さんをサポートする新しいモビリティです。


写真 1
正面玄関近くのホールに設置した「WHILL のりば」に駐機する機体

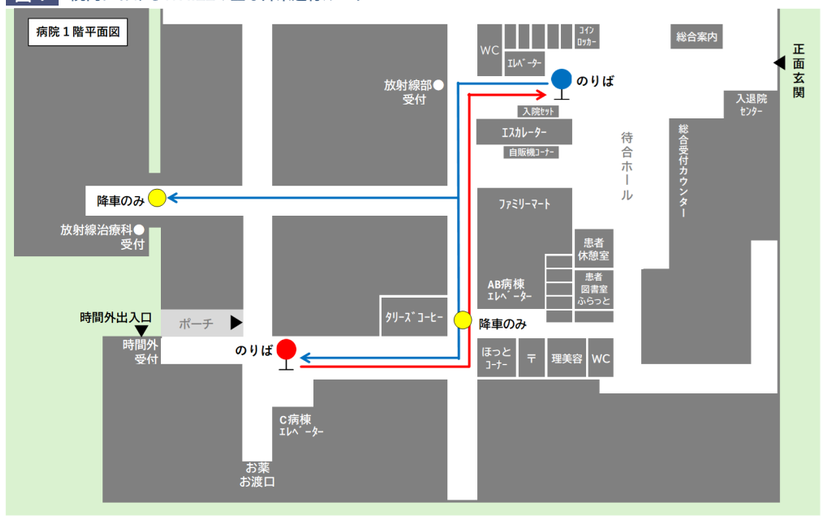

写真 2
病院玄関からの到着地点であり、C 病棟からの出発地点となる「C 病棟 WHILL のりば」。正面玄関から離れた C 病棟への移動や、入退院時、面会時などに便利です。

病院玄関ホールおよび C 病棟エレベーター前に設置した「WHILL のりば」（写真 1、2）から、タッチパネルで行き先を選択するだけで目的地まで移動できます。主な行き先は、AB 病棟・C 病棟のエレベーター前、放射線治療科、タリーズコーヒーなどです（図 1）。

外来受診時の長距離移動に不安のある方はもちろん、入退院時に荷物が多い方や体力に不安が残る方にもご利用いただけます。

地域の医療機関の皆様におかれましても、院内移動に不安を抱える患者さんへのご案内にお役立ていただければ幸いです。

図 1　院内におけるWHILLの主な外来運行ルート



問い合わせ先　リハビリテーション医学講座医局　TEL：0853-88-3047

Vol.157 2026 11 島大病院ニュース
2026年11月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

Shimane University Hospital
島大病院ニュース
NEWS
2026年 11月
Vol.157

CONTENTS

申表紙
・難病総合治療センター
センター長就任のご挨拶
・令和8年熊本地震 DMAT活動報告会を
開催しました

裏表紙
・自動運転モビリティ「WHILL」の
外来運用を開始しました

表紙：救急医学講座　教授　　澤野　宏隆





難病総合治療センター　センター長就任のご挨拶

消化器内科　講師　　川島（かわしま）　耕作（こうさく）



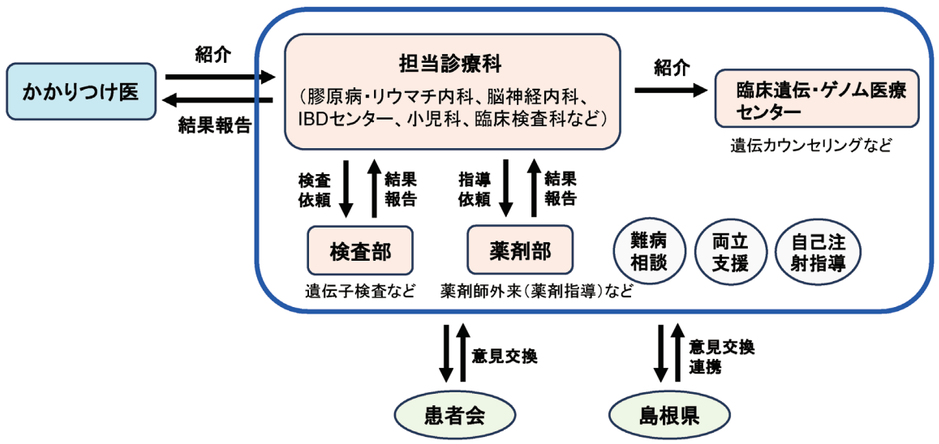
この度、難病総合治療センター長を拝命いたしました川島耕作です。

難病総合治療センターは、膠原病・リウマチ内科、脳神経内科、炎症性腸疾患センター（IBD センター）、小児科など難病疾患を担当する機会の多い診療科を中心に運営しております。各難病疾患の診療は、基本的には各担当診療科にて行っておりますが、当センターとしてチーム医療の充実を目指しています。最大の特徴は、薬剤部の協力の下「薬剤師外来」を設置していることです。近年、生物学的製剤をはじめとした免疫を調節する多数の薬剤が使用可能となりましたが、患者さんに対する薬剤指導、お薬相談、治療開始後の経過観察を行うことにより、患者さんの治療薬に対する理解や治療継続のサポートを行っています。

さらに、小児期から成人診療科への移行（移行期医療）、適正な治療を受けながら働き続けられるよう両立支援体制の充実に取り組んでおります。検査部および小児科では先天性疾患の診断のため全国より多数の検査を受け付けています。膠原病・リウマチ内科では、産科と連携しハイリスク妊娠の対象となる患者さんにプレコンセプション妊娠外来も開設しております。

2027 年 1 月から病院 2 階の一角に「難病総合治療センター」を設置します。院内の様々な部門と協力し、患者会や県などとも意見交換を行いながら島根県の難病医療の向上に努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

難病総合治療センター



問い合わせ先　難病総合治療センター（内科外来）　TEL：0853-20-2381

令和8年熊本地震 DMAT活動報告会を開催しました

災害医療・危機管理センター　センター長　渡部（わたなべ）　広明（ひろあき）

令和 8 年熊本地震の被災地へ DMAT（災害派遣医療チーム）として派遣された職員たちによる、院内職員向け活動報告会を 9 月 15 日（火）に開催しました。現地へ赴いた 3 隊の代表が、被災地のフェーズに応じた活動や支援の成果、今後の課題について報告を行いました。

＜第 1 隊：7/30 ～ 8/2＞

発災 2 日後に現地へ到着した第 1 隊は、県央南活動拠点本部（済生会熊本病院）に出動。35 度を超える猛暑のなか、熊本市の東病院での夜間診療支援として、避難患者 22 名の受け入れやトリアージ、処置、転院搬送を実施しました。翌日には地域の診療所への訪問調査も行い、現場医療機関の負担軽減に貢献しました。


第 1 隊の木谷昭彦助教（高度外傷センター）

＜第 2 隊：8/2 ～ 8/3＞

第 2 隊は、拠点本部の「搬送調整班」として本部活動に参画。広域災害救急医療情報システム（EMIS）などを駆使し、患者さんの搬送調整やデータ集計を行いました。各部隊が迅速に医療を提供できるよう「作戦本部」としての役割を担ったほか、逼迫する救急外来へのスタッフ派遣も行いました。

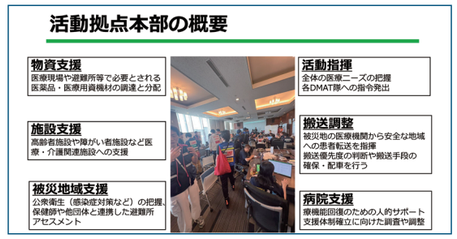

第 2 隊の佐野由衣薬剤師（薬剤部）

＜第 3 隊：8/3 ～ 8/6＞

第 3 隊は、熊本県こども総合療育センターの病院支援を行いました。「被災地のためにやれることはなんでもやる」という信念のもと、診療支援に留まらず、避難生活を送る小児患者さんの見守りや生活支援、院内の設備復旧にも対応。3 日目には医療機関の現地調査にも出向きました。


第 3 隊の三根達也看護師（集中治療部）

椎名病院長からは、「災害時こそ『人の力』と助け合いが不可欠です。このたびの DMAT の活動を深く労うとともに、本報告会を通じ、有事の際に『助け合おう』と立ち上がる方が一人でも増えることを願っております。」との言葉がありました。



活動報告の様子

今回の支援活動は、現地で活動した隊員だけでなく、派遣にあたり院内で厳しい勤務調整や日常業務のバックアップを担った病院全職員の協力があってこそ実現したものです。

当院は今後も病院一丸となり、被災地への継続的な医療支援ならびに地域の防災・医療体制の強化に努めてまいります。

問い合わせ先　災害医療・危機管理センター　TEL：0853-88-3040

Shimane University Hospital

ご報告



次世代を担うロボット支援手術執刀医活動スタート！
―当院における早期執刀と技術向上の取り組み―

消化器・総合外科　岡村（おかむら）　拓樹（ひろき）

近年、消化器外科領域ではロボット支援手術の普及と標準化が進んでいます。低侵襲性や緻密な操作による合併症低減、術者の負担軽減など多くの利点があり、当院消化器・総合外科でも悪性腫瘍の主要な術式として積極的に実施しています。

同時に、全国的に「若手医師へのロボット支援手術教育の早期導入」が注目されています。ロボット支援手術は、「3D 立体視野」「手ぶれ補正」「自由度の高い関節機能を有する鉗子操作」といった強みがある一方、安全な取り扱いに向けた修練が欠かせません。シミュレータ訓練や 2 台のコンソールを用いた指導医による同時手術により、高い安全性と効率的な教育が可能となっています。



ロボット支援手術をする筆者

当科でもこうした先進的な教育体制を取り入れ、執刀開始の早期化を推進しています。卒後 7 年目の私も助手経験を経て、本年「da Vinci Xi Console Surgeon」の資格を取得し、執刀医として新たな一歩を踏み出しました。若手のうちから執刀を経験できることは、安全性向上への理解を深め、外科医として成長する大きなアドバンテージとなります。

多職種と緊密に連携しながら、次代を担う若手を育成できる指導医を目指し、研鑽を重ねてまいります。

問合せ先　消化器・総合外科　医局　TEL：0853-20-2232

ご報告 島大病院ニュース
2026年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2026年11月

ご報告



腸内の有益菌が腸炎関連細菌の増殖を抑えるメカニズムを明らかにしました

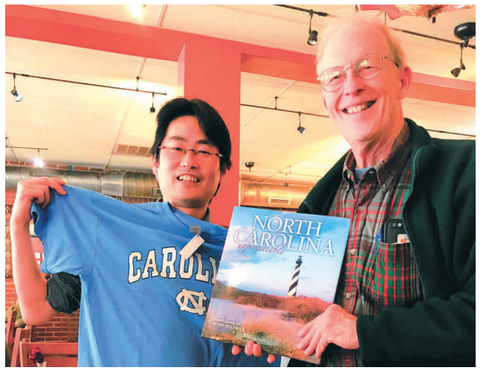
内科学講座（内科学第二） 助教　岡（おか）　明彦（あきひこ）

島根大学と米国ノースカロライナ大学、韓国 Veterans Health Service Medical Center、慶應義塾大学、順天堂大学などの共同研究グループは、腸内の有益菌が腸炎を抑える新たな仕組みを解明し、国際学術誌「Cell Host & Microbe」に発表しました（PMID：42648293、島根大学プレスリリース：2026 年 9 月 14 日）。

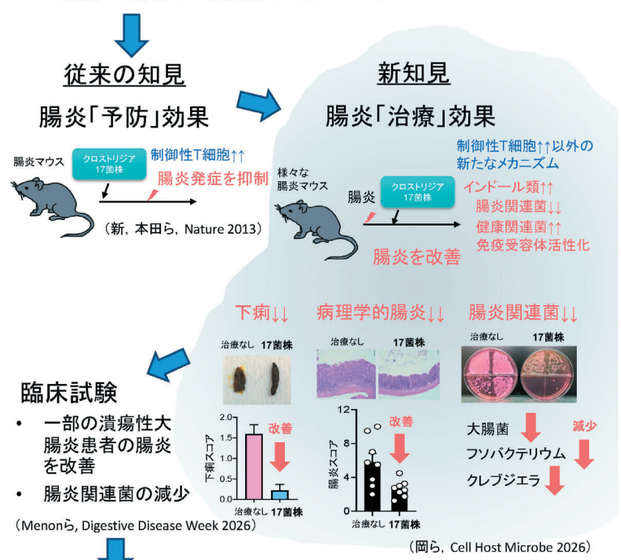
腸内細菌のバランスの乱れは、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に関わります。有益菌の免疫調節作用は知られていましたが、その産生物質が腸炎関連菌の増殖を直接抑える仕組みは十分に解明されていませんでした。

今回、健康な人の腸内から分離した 17 種類のクロストリジア菌群を腸炎モデルマウスに投与すると、下痢や腸の炎症が改善しました。さらに、この菌群が産生するインドール類（インドール -3- プロピオン酸など）が、①大腸菌、クレブシエラ菌、フソバクテリアなどの腸炎関連菌の増殖を直接抑制し、②免疫に関わる受容体（AhR）を活性化して抗炎症作用を発揮することが示されました。

本研究は、有益菌が腸内細菌叢と宿主免疫の両方に働きかけ、腸炎改善に寄与する新たな仕組みを示したものです。すでに関連研究を背景に、クロストリジア菌群を用いた潰瘍性大腸炎の臨床試験も実施されました。今後、クロストリジア菌群やインドール類を含めた新たな治療法の開発が期待されます。



米国ノースカロライナ大学留学中の一枚
米国ノースカロライナ大学留学中の筆者（左）と、
共同研究者で指導教官のR. Balfour Sartor教授（右）



クロストリジア菌群による腸炎改善効果
17種類のクロストリジア菌を腸炎モデルマウスに投与すると、下痢や病理学的な腸炎が改善し、腸炎関連菌が減少しました

問合せ先　内科学講座（内科学第二）　TEL：0853-20-2190

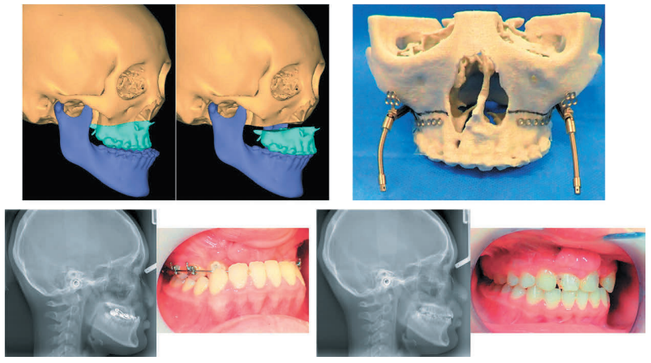
ご報告 島大病院ニュース
2026年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

（あごの骨）
顎顔面骨における再生医療の最前線
～顎骨延長術～

歯科口腔外科　教授・診療科長　管野（かんの）　貴浩（たかひろ）

「骨延長術」は、骨が折れたあとに自ら治ろうとする力を利用した治療法です。まず手術で骨を切り、人工的に骨折した状態をつくります。すると、骨と骨の間には、治癒の過程で新しい骨のもととなる柔らかい組織（仮骨）が形成されます。この仮骨ができた時期に、専用の延長装置を使って骨と骨の間を毎日少しずつ（1日1mm程）広げていきます。すると、その隙間を埋めるように新しい骨が次々とつくられ、最終的にはしっかりとした骨へと成熟していきます。



口唇口蓋裂・骨延長事例　術前（左）、術後（右）

この方法の大きな特徴は、人工物や他の部位から採取した骨で不足部分を補うだけではなく、患者さん自身が持つ骨の再生能力を利用して、新しい骨をつくり出すことです。さらに、骨が延びるのに伴って、周囲の筋肉、粘膜、血管、神経などの軟組織も一緒に伸び、再生していきます。このため、骨と軟組織を同時に再建できる、再生医療の考え方を生かした治療といえます。

この方法を顎の骨に応用したものが「顎骨延長術」です。当院歯科口腔外科では、主に口腔内に設置する最新の延長器を用い、外から装置が目立ちにくい方法で治療を行っています。患者さん自身が持つ骨・軟組織の再生能力を最大限に生かしながら、顎や顔の形態、かみ合わせ、口腔機能の改善を目指しています。

今回ご紹介するのは、口唇口蓋裂の幼少期からの繰り返しの手術後に中顔面の発育が十分でなかった患者さんです。上顎骨延長術を行うことで、上顎の位置と顔貌、かみ合わせが大きく改善し、良好な治療結果が得られました。

顎の歪みや、かみ合わせの異常でお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当院までご相談、ご紹介くださいますようお願い申し上げます。

問合せ先　歯科口腔外科学講座　医局　TEL：0853-20-2301

ご報告 島大病院ニュース
2026年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2026年11月

ご報告



芳名録を拝納する椋医学科長



慰霊のことばを述べる竹谷医学部長



感謝の辞を述べる学生代表



白菊を献花する学生

第49回解剖体慰霊祭を執り行いました

総務課総務係



2026年10月15日（木）、医学部体育館にて、第49回解剖体慰霊祭を執り行いました。慰霊祭は、医学の教育・研究のために尊いご遺体をご提供くださいました方々を慰霊するものです。

当日は、ご遺族、有終会会員、来賓、教職員及び医学科生等が参列し、黙祷を捧げたあと、椋医学科長が、2025年8月から2026年8月までに系統解剖、病理解剖または法医解剖をさせていただいた166名の芳名録を祭壇に拝納いたしました。

続いて、竹谷医学部長が、「医学・看護学の教育と研究、未来の医学・医療の発展のため、尊いお身体をお預けくださいました皆様に、心より敬意と感謝の誠を捧げ、まだ見ぬ医学生の学びを思いお身体を託そうと決意されることは容易なことではなく、お一人おひとりが歩んでこられた人生があり、大切にされたご家族があり、より良い医学と医療を残したいという尊い願いがあります。私どもは、そのご厚志の重さを決して忘れてはならないと考えております。」と慰霊のことばを捧げました。

また、学生代表が、「ご自身のお身体を医学教育のために捧げてくださった方々、ご意思を尊重し、献体にご協力くださったご遺族の皆様のおかげで、かけがえのない学びの機会をいただき、教科書や講義だけでは決して得ることのできない多くの学びがありました。」と感謝のことばを述べました。

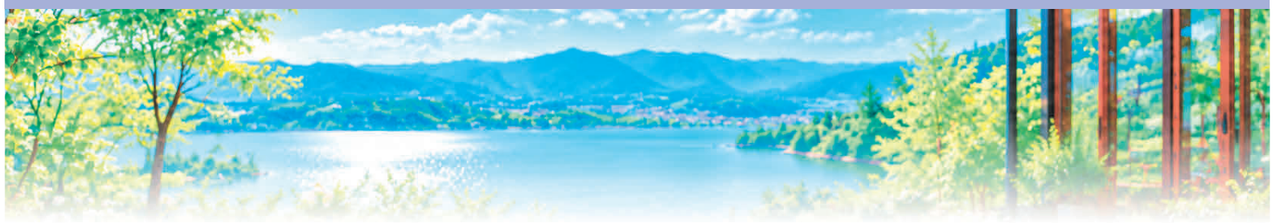
その後、参列者全員で献花を行い、ご献体くださいました故人のご冥福をお祈りし、閉式となりました。

故人の皆様、並びにご遺族の皆様の並々ならぬご理解とご厚意に心より感謝申し上げます。

問合せ先　総務課総務係　TEL：0853-20-2016

ご報告 島大病院ニュース
2026年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告



新人看護職員リフレッシュ研修を実施しました！

看護部　看護管理室　副看護部長　石飛（いしとび）　和歌子（わかこ）

新人看護職員は入職から半年が経過し、各部署で看護実践の経験を積み重ねています。その一方で、担当する業務の幅も広がり、緊張感を持ちながら日々の看護に取り組んでいます。今年度も職場を離れ同期との親睦を深めることを目的に、島根県立青少年の家「サン・レイク」にて新人看護職員リフレッシュ研修を実施しました。

現地では、チームで協力して課題に挑戦する「仲間づくりゲーム」に取り組みました。参加者はお互い声を掛け合う大切さやチームワークの重要性を体験しました。午後からはバウムクーヘンづくりを行い、炭火の上で生地を丁寧に重ね、一つの作品を完成させました。それぞれが役割を担いながら協働することで、大きな達成感を味わうことができました。



集合写真


フラフープくぐり（仲間づくりゲーム）


みんなで焼き上げるバウムクーヘン

研修を通して新人看護職員は、コミュニケーションやチームで協働することの大切さを改めて実感するとともに、普段は異なる部署で勤務する同期との交流を深めることができました。お互いに支え合える仲間の存在を再認識する機会にもなりました。

今後も当院では、知識や技術の習得だけでなく、精神的な支援や仲間づくりを大切にしながら、新人看護職員が安心して成長できる環境づくりに取り組んでまいります。今回の研修で深まった同期の絆を力に変え、それぞれの部署で活躍してくれることを期待しています。

問合せ先　看護管理室　TEL：0853-20-2478

ご報告 島大病院ニュース
2026年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2026年11月

ご報告


災害対策本部


現地診療指揮所


重症エリア

附属病院・医学部合同災害訓練を実施
― アクションカードを活用した災害対応 ―

災害医療・危機管理センター　センター長　渡部（わたなべ）　広明（ひろあき）

2026 年 9 月 30 日（水）、附属病院と医学部合同で、年に一度の大規模な合同災害訓練を実施しました。今回は、出雲市を中心に震度 6 強の地震が発生したとの想定のもと、改訂した事業継続計画（BCP）第 7 版に基づき、災害時の対応手順を確認しました。

訓練のテーマは「アクションカードを使おう」。アクションカードとは、災害発生時に各部署が行うべき行動や役割を簡潔にまとめたものです。参加した各部署は、このカードを手に、限られた時間の中で何を優先し、どう連携するかを実践しました。

当院では、発災から 5 分以内に「災害初動本部」を設置。被害情報を収集して「災害対策本部」の設置を決定し、発災 15 分以内に本部体制を整えました。さらに、院外から搬送される患者への対応を指揮する「現地診療指揮所」を設置し、救護所での患者受け入れを訓練しました。

医学部では、教育施設・設備の被害状況や学生の安否を確認するとともに、「医学部災害対策事務局」を設置し、医学部全体の災害対応を指揮する手順を確かめました。

訓練後には参加者が活動を振り返り、より円滑で確実な災害対応に向けた改善点を共有しました。今回得られた気づきを今後の体制づくりに生かし、災害時にも地域の医療と教育を支えられる組織づくりを進めてまいります。

問合せ先　災害医療・危機管理センター　TEL：0853-88-3040

ご報告 島大病院ニュース
2026年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告



職員による環境整備ボランティア活動を実施しました

会計課施設管理室長　吉田（よしだ）　泰樹（たいき）

当院の環境整備は、各種団体のボランティアの方々に定期的に行っていただくほか、業者に委託していますが、職員のボランティアによる環境整備も実施しています。

今回は、10月に実施した職員ボランティア活動のご報告です。



2026年10月4日（日）に、椎名病院長、竹谷医学部長をはじめとする教職員総勢22名により、臨床研究棟・第二研究棟周辺の除草・剪定などの清掃活動を行いました。

当日は、にわか雨が心配されましたが、幸いにも作業中に大きく天候が崩れることはなく、除草・剪定・集積作業を行うことができました。参加者には熱心に作業を行ってもらい、すっきりとした景観となりました。

今後も大学・附属病院の美観を維持するボランティア清掃活動にご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願い致します。

問合せ先　会計課施設管理室施設総務担当　TEL：0853-20-2549



ご報告 島大病院ニュース
2026年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2026年11月

ご報告

日本医療マネジメント学会 第24回島根県支部学術集会を開催いたしました

総務課総務係

2026年10月10日（土）、ビッグハート出雲において、当院の椎名病院長が大会長を務める「日本医療マネジメント学会第24回島根県支部学術集会」が開催されました。

「医療人の働き方改革と医療安全」をテーマに掲げ、県内の医療機関を中心に約170名の皆様にご参加いただきました。

メイン会場では、国立大学法人浜松医科大学医療法学の大磯義一郎教授による特別講演「医師の働き方改革と医療安全」のほか、松江赤十字病院内田靖副院長、島根県立中央病院 小阪真二病院長、雲南市立病院 佐野啓介院長、益田赤十字病院青木明彦院長によるシンポジウムが行われ、それぞれの立場から活発な議論が交わされました。

また、県内の各医療機関から寄せられた一般演題35題について、7つのテーマに分かれてポスター発表が行われました。各会場では、日頃の診療や業務における実践や研究成果が発表され、質疑応答では聴講者から質問や意見が相次ぐなど、活発な意見交換が行われました。

開催に当たっては、院内の多くの部署・職員が連携して準備を進め、当日も多数の関係者の協力のもと、盛会のうちに終了することができました。

ご後援を賜りました出雲市、島根県医師会をはじめ、ご支援・ご協力いただきました皆様、ご参加いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

問合せ先　総務課総務係　TEL：0853-20-2015



大会長を務める椎名病院長



特別講演講師　大磯義一郎教授



特別講演「医師の働き方改革と医療安全」



シンポジウム「医療人の働き方改革と医療安全」



ポスター発表の様子（アートギャラリーにて）

ご報告 島大病院ニュース
2026年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告



WLBセミナーの様子

ワークライフバランスセミナーを開催しました

地域医療支援学講座　助教
ワークライフバランス支援室　　堀田（ほった）　優希江（ゆきえ）

当講座では島根県からの委託を受けて、ワークライフバランス事業を行っています。この度、2026 年 9 月 17 日（木）にワークライフバランス支援室、島根大学ダイバーシティ推進室と共催にてワークライフバランスセミナーを行いました。講師として NPO 法人看護職キャリアサポート顧問フリージア・ナースの会 会長 大島敏子先生をお招きし、『WLB 推進は「明日への投資」』と題し、開催しました。



講師　大島 敏子 先生

先生は、ワーク・ライフ・バランス（WLB）という言葉がまだ浸透していなかった時代から、長年にわたり管理職として医療現場を支えてこられました。講演では、WLB を進めることが、職員の定着や人材育成、安全で質の高い医療の提供につながることをお話しされました。

また、制度を整えるだけでなく、「休んでもらってよかった」と思える職場の雰囲気づくりが大切だと強調されました。「すべての人に平等に与えられているのは『時間』と『死ぬこと』」という言葉も印象的でした。限られた時間を大切にし、互いに支え合うことの重要性を、長年の経験を交えて語っていただきました。医療現場では、患者さんの安全を守りながら、職員が安心して働き続けられる環境をつくることが求められます。今回の講演は、仕事と生活のバランスについて考えるとともに、よりよい医療を支える職場づくりについて考える貴重な機会となりました。

今後もワークライフバランス支援室と協力しながら、職場環境の改善、仕事家庭の好循環を目指して活動を継続したいと思います。

問合せ先　地域医療支援学講座事務室　TEL：0853-20-2558

ご報告 島大病院ニュース
2026年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2026年11月

ご報告









緩和ケア病棟で

お月見お茶会を開催しました

緩和ケア病棟　センター長　　大野（おおの）　智（さとし）
緩和ケア病棟　看護師長　　妹尾（せのお）　千恵（ちえ）

2026 年 9 月 25 日（金）、十五夜の日に合わせて、お月見お茶会を開催しました。スタッフも着物や浴衣姿で参加し、手作りのお月様を眺めながら、お抹茶やさつま芋きんとんを楽しみました。

患者さんやご家族と一緒に、ゆったりとした楽しい時間を過ごすことができました。皆さんのうれしそうな笑顔や笑い声があふれ、病棟全体が和やかな雰囲気に包まれました。ご家族からは「ほっとする時間ができてよかった」とのお言葉もいただき、私たちスタッフにとっても温かいひとときとなりました。

今回のお茶会は、多くの方に協力いただき、とても素敵な会となりました。緩和ケア病棟では、コロナ禍を経て、以前のように少しずつ季節のイベントを開催する機会が増えています。これからも、患者さんやご家族に少しでも「ほっとできる時間」を過ごしていただけるよう、和みのひとときを大切にしていきたいと思います。





問合せ先　C 病棟 5 階　TEL：0853-20-2615

ご報告 島大病院ニュース
2026年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/